

6 中国広東省のウンカ発生状況

ねらいと成果

2005年は西日本にトビイロウンカが久しぶりに多数飛来し、兵庫県の一部地域でも坪枯れ被害がみられた。トビイロウンカ、セジロウンカは東南アジア地域で周年発生し、その後中国南部へ移動、更に海を越えて日本に飛来すると考えられている。そこで日本での発生を予測するため中国南部の広東省と兵庫県とのウンカ類の発生状況のデータ交換を行い、広東省のウンカ発生状況を把握した。

内容

兵庫県では1993年より兵庫県・広東省共同研究事業として、広東省と水稲育種に係る共同研究を実施してきた。また、2002年の『兵庫県・広東省友好提携20周年共同声明』に基づき、更なる友好関係の発展のために広東省農業庁と『ウンカ等飛来性害虫の発生予察技術の支援と交流』という課題の共同研究を2005年から実施している。

広東省の北西部にある韶関(Shaoguan)市は春～夏期には北への、また秋期には南への風の通り道となる中国国内でも重要なウンカ観測地点である。この地に兵庫県から自動式日別採集型予察灯(MT-7)を2005年8月に設置し(図1)、9月からウンカの飛来状況を調査して、兵庫県に報告してもらっ



図1 広東省韶関市の予察灯設置状況

ている(図2)。

県内で飛来の多い淡路で、戦後最も飛来数の多かった1954年、最多被害時の1966年(被害面積58.5%)及び2005年の誘殺状況データを図3に示す。1954年には淡路でも現在の広東省並のトビイロウンカの発生があったが、最近の飛来数は非常に少なくなっている。今後はデータを蓄積し、兵庫県の飛来数と広東省での発生との関連を解析し、より正確な発生予察を確立していく計画である。

今後の方針

日中両国間のウンカの発生状況データの交換は両国にとって、ともに初の試みである。今後はこれらの情報が両国間のウンカの生態解明や発生予測、更には日中の友好にも役立つように、継続して調査を実施していく予定である。

二井 清友(農業技セ・病害虫防除部)
(問い合わせ先 電話:0790-47-1222)

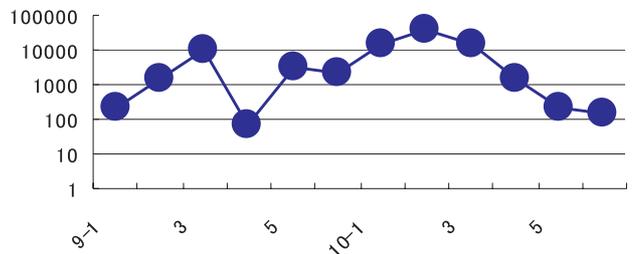


図2 韶関市におけるトビイロウンカの予察灯誘殺数

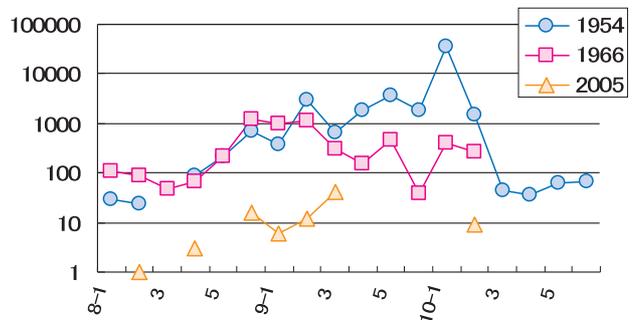


図3 淡路におけるトビイロウンカの予察灯誘殺数